

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：36201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00090

研究課題名（和文）「植民地朝鮮における日本人宗教者に関する基礎的調査研究」

研究課題名（英文）Basic Research on Japanese Religion Missionaries in Colonial Korea

研究代表者

金 泰勲（KIM, TAE）

四国学院大学・文学部・教授

研究者番号：10608706

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、朝鮮総督府によって作成された「宗教関係行政文書」と『朝鮮総督府官報』を基にして、植民地朝鮮で活動していた日本人宗教者に関する基礎的な情報を網羅的にデータベース化することができた。日本仏教、日本キリスト教、神道に分けて、各教派別に活動していた布教者の氏名、活動時期および地域を確認できた。そして1905年から1945年までに作成された「朝鮮総督府宗教関係行政文書」の翻刻作業を開始して随時公開を行っている。

データベースをWEB上で公開している「植民地朝鮮の日本人宗教者」（<https://www.jpck.org/>）の構築は、本研究の最も重要な成果である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

植民地期朝鮮で活動していた、3,145名の日本人宗教者に関するデータベース化は、本研究が初めての業績となる。韓国では本研究の成果を引用しつつ発展させている研究論文がすでに4本も発表されており、本研究の学術的な意義は今後さらに注目されていくと期待できる。

また、公開データベース「植民地朝鮮の日本人宗教者」（<https://www.jpck.org/>）は、2020年9月公開以来、日本、韓国、米国などを中心に、現在まで1万回を超えるアクセス件数に達しており、専門の研究者のみならず、広く社会一般においても、植民地期朝鮮で活動していた日本人宗教者たちに関する研究の重要性と感心を高めている。

研究成果の概要（英文）：In this study, we were able to comprehensively database the fundamental information regarding Japanese religion missionaries who were active in colonial Korea, based on the 'Religious Administration Documents' and the 'Official Gazette of the Office of the Governor-General of Korea' compiled by the Office of the Governor-General of Korea. By categorizing them into Japanese Buddhism, Japanese Christianity, and Shinto, we were able to confirm the names of missionaries, their periods of activity, and the regions they operated in, categorized by each religious sect. Furthermore, we have initiated the transcription and ongoing public release of the 'Religious Administration Documents of the Office of the Governor-General of Korea' created between 1905 and 1945.

The establishment of the database, publicly accessible on the web as 'Japanese Religion Missionaries in Colonial Korea' (<https://www.jpck.org/>), is the most significant achievement of this study.

研究分野：近代日韓宗教史

キーワード：植民地朝鮮の日本人宗教者 朝鮮総督府宗教関係文書 朝鮮総督府官報 植民地朝鮮布教

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

近年、近代宗教史分野においては、「内地」と植民地朝鮮の宗教的連環に関する研究が大きく進展を見せている。磯前順一・尹海東編『植民地朝鮮と宗教 帝国史・国家神道・固有信仰』(三元社、2013年1月)、中西直樹『植民地朝鮮と日本仏教』(三人社、2013年10月)、青野正明『帝国神道の形成 植民地朝鮮と国家神道の論理』(岩波書店、2015年7月)などがその代表的な業績である。これらの研究は、一国史の限界を意識しつつ、トランスナショナルな帝国史の観点から近代帝国日本の宗教的連環を描き出そうとする点において問題意識を共有しているといえよう。

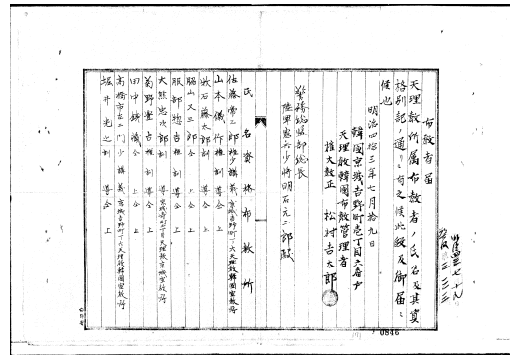
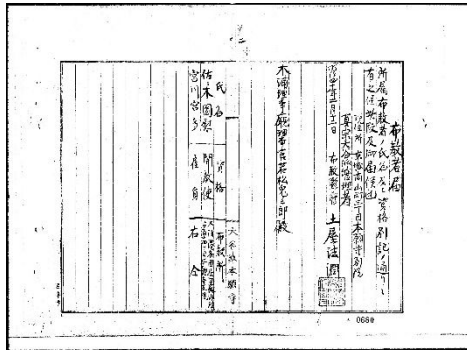
帝国日本の「本国」から帝国の植民地諸地域へ移植された日本の諸宗教はいわゆる「近代宗教」である。というのは、明治期の近代化のなかで、神社、教派神道、仏教、キリスト教、民間信仰など、日本のすべての宗教的領域は、国家と社会との関係によって、教義や組織を含む社会的存在様式が、一応、近代化の過程を経たからである。「宗教であること」と「宗教ではないこと」の峻別が行われ、抑圧や差別といった暴力性を伴いながら宗教的領域の再編成が行われた。しかし日本の近代宗教史を考える場合には、国内におけるこのような「近代化」の過程のみならず、帝国化の側面も含めて考えなければならない。「内地」から植民地へ移動する日本宗教は、植民地での布教活動やそのなかにおける植民地民との接触を通して、植民地を経営する帝国の宗教へと転化した。要するに、近代日本の宗教は、自らが経験した宗教的領域の再編成過程における近代の抑圧と暴力性を、植民地における宗教的領域の再編成過程でそれを再現する「近代化」の伝達者となること、植民地の宗教との接触を通して、帝国の宗教的秩序を作り出すイデオロギーを自らの信仰体系のなかで発見・創造すること、の二点において帝国の宗教となる。

この観点から申請者は、近代日本宗教の植民地朝鮮への伝播という歴史的な事実について、「日本と朝鮮にそれぞれ確固たる宗教的領域が先にあって、一方の日本宗教が他方の朝鮮宗教を侵食するような事態」ではなく、「自己の内部において曖昧なものとして矛盾を孕む形で未だ存在していた日本の「宗教」概念が、植民地支配という近代的経験に直面して、近代的概念としては未だ未分化の状態にあった植民地の宗教領域を分化させる再編成過程」であったと述べたことがある(「一九一〇年前後における「宗教」概念の行方—帝国史の観点から」磯前順一・尹海東編『植民地朝鮮と宗教—帝国史・国家神道・固有信仰』、研究業績10)。そのような両者の関係性を帝國的な状況のなかで立体的に構築するためには、まずその移動の全体像を把握する基礎作業が不可欠であろう。

これまでの先行研究においては、各宗派や教団を単位とした植民地朝鮮布教に関する研究と一部のいわゆる名の通った宗教者の活動に関する研究はある程度蓄積してきたといえよう。しかし、各宗派を合わせると数百人を超える一般生活者としての宗教者一人一人の状況に関しては、光を当てることがなかった。

## 2. 研究の目的

本研究を進行する上で大きな手掛かりとなるものが、以下の写真のような朝鮮総督府の宗教関係行政文書である。



植民地朝鮮で活動する日本人宗教者は、すべて朝鮮総督府へ届書を提出することが義務付けられていた。そのため、現在、朝鮮総督府の行政文書を所蔵している韓国の国家記録院には、上記写真のような届書が数百件保存されている。植民地期を通してすべての記録が残存しているわけではないが、これらの届書には各宗派の日本人布教者の氏名、本籍および履歴などが記録されている。したがって本研究の目的は、韓国・国家記録院に所蔵されている布教者届類の記録をすべて整理すること、それを日本の各宗派の記録と照らし合わせて確認しつつ、可能な限りそのネットワークの全体像を明らかにすること、収集した情報をデータベース化して日本語版と韓国語版で公開する、その分析を通して近代日本の宗教史を帝國的な状況で再構築することである。

本研究は、トランスナショナル・ヒストリーや帝国史研究へと展開している近代日本宗教史研究において、植民地朝鮮布教に関してもっとも要求される基礎的な作業である点に、その独創性と意義がある。トランスナショナルな宗教領域の帝国史的展開を考察するためには、人的ネットワークの具体像を生活者のレベルで実証的に構築する作業が急務である。植民地朝鮮布教の全体像を構成する人的情報のデータベースは、各宗派別、重要人物・政策・本部中心に行われてきた当該研究の限界を、布教現場の生活者レベルで総合的に把握することを可能にするとともに、今後、帝国日本の宗教史研究における基本的な方法論を提供できる効果が予想される。

本研究は、宗教者間のネットワークやその連鎖を重視するため、人脈・知識人の行動に関わる史料のみならず、行政文書に現れる多くの人的史料を収集することが不可欠であり、そのためには東アジアにおける現在の研究者間ネットワークを活用しての情報・意見交換・共同研究会とシンポジウムなどの開催がより重要となってくる。以上の点を中心に以下の段階で研究を進めていく。

- (1) 韓国・国家記録院所蔵の宗教関係行政文書を時代、内容別に整理
- (2) 布教者届書類の文書を抽出し、宗派別に整理
- (3) 日本の資料及び先行研究の内容から補足、現地調査
- (4) データベースの構築と公開

### 平成 30 年度

韓国・国家記録院所蔵の宗教関係行政文書を収集して、時代・内容別に整理することが調査研究 1 年目の課題である。

- ・ 韓国の国家記録院は京畿道成南市、大田広域市、釜山広域市の 3 力所に分かれており、そ

れぞれ所蔵している文書の内容も差異がある。同記録院のホームページ上に公開されているもの以外に、とくに宗教関係行政文書は成南市と大田市に集中しているため、この2カ所は比較的長期間にわたる現地調査を要する。

- ・現地調査は8月と9月にかけて成南市と大田市で1カ所に10日間以上の調査を行い、釜山市は翌年の2月に行う。追加の現地資料調査が必要な場合は3月にも行う。
- ・宗教関係行政文書は、朝鮮総督府の内部で神社行政を担当していた内務局（1925年以降、それ以前は学務局）と宗教行政を担当していた学務局にわかれている以外、保安関係で警務局の文書にも多くの宗教関係のものが含まれている。それらを全部確認する必要がある。
- ・朝鮮統監府が設置される1905年から1930年までを前期、1931年から1945年までを後期と分けて、平成30年度は主に前期に関する資料の収集と整理を行う。

#### 平成31年度

- ・1931年代から1945年までの後期の資料を収集、整理する。
- ・研究1年度目と同様に、現地調査は8月と9月にかけて成南市と大田市で1カ所に10日間以上の調査を行い、釜山市は2月に行う。追加の現地資料調査が必要な場合は3月にも行う。
- ・布教者届書類の文書を中心に、日本の各教団が保管している資料および先行研究の内容をもとに記入項目の補足を行う。

#### 平成32年度

- ・データベースの構築と分析を行う。また、関係研究者によるシンポジウムの開催と学会報告、データベースの公開。
- ・データの選別作業と関わって、個人情報の取り扱い方に関して深く検討する。本研究は、生没年が確認される布教者を研究対象とするため、基本的に「個人情報の保護に関する法律」には抵触しない。ただし、その情報公開に当たっては十分な検討と配慮を要するため、学術研究において近現代の人物に関する情報がどこまで利用可能なのかという問題も含めて深く検討する。

#### 4. 研究成果

本研究では、朝鮮総督府によって作成された「宗教関係行政文書」と『朝鮮総督府官報』を基にして、植民地朝鮮で活動していた日本人宗教者に関する基礎的な情報を網羅的にデータベース化することができた。日本仏教、日本キリスト教、神道に分けて、各教派別に活動していた布教者の氏名、活動時期および地域を確認できた。そして1905年から1945年までに作成された「朝鮮総督府宗教関係行政文書」の翻刻作業を開始して随時公開を行っている。

データベースをWEB上で公開している「植民地朝鮮の日本人宗教者」(<https://www.jrpkc.org/>)の構築は、本研究の最も重要な成果である。植民地期朝鮮で活動していた、3,145名の日本人宗教者に関するデータベース化は、本研究が初めての業績となる。韓国では本研究の成果を引用しつつ発展させている研究論文がすでに4本も発表されており、本研究の学術的な意義は今後さらに注目されていくと期待できる。

また、公開データベース「植民地朝鮮の日本人宗教者」(<https://www.jrpkc.org/>)は、2020年9月公開以来、日本、韓国、米国などを中心に、現在まで1万回を超えるアクセス件数に達し

ており、専門の研究者のみならず、広く社会一般においても、植民地期朝鮮で活動していた日本人宗教者たちに関する研究の重要性と感心を高めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 金泰勲	4. 巻 第4集
2. 論文標題 『朝鮮総督府官報』から見る日本系宗教流入の全体図	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『共存の人間学』	6. 最初と最後の頁 233～273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安裕林 / 金泰勲訳	4. 巻 第11号
2. 論文標題 日本帝国におけるキリスト教統制法の朝鮮移植 - キリスト教布教機関規制を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東アジアの思想と文化』	6. 最初と最後の頁 1～24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 殷暁星・金泰勲	4. 巻 第11号
2. 論文標題 新刊紹介「桂島宣弘・長志珠絵・金津日出美・沈熙燦編『東アジア 遭遇する知と日本 - トランスナショナル思想史の試み』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東アジアの思想と文化』	6. 最初と最後の頁 128～133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金泰勲	4. 巻 36号
2. 論文標題 書評「青野正明著『植民地朝鮮の民族宗教 国家神道体制下の「類似宗教」論』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本思想史研究会会報』	6. 最初と最後の頁 115～122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金泰勲	4. 巻 41
2. 論文標題 「天理教の組織と制度 現在の観点から見た限界と可能性」(韓国語)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『新宗教研究』	6. 最初と最後の頁 1～39
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金泰勲	4. 巻 36
2. 論文標題 「【書評】青野正明著『植民地朝鮮の民族宗教 国家神道体制下の「類似宗教」論』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本思想史研究会会報』	6. 最初と最後の頁 115～122
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金泰勲	4. 巻 660
2. 論文標題 「朝鮮総督府「心田開発政策運動」の宗教談論」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『立命館文学』	6. 最初と最後の頁 512～521
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件(うち招待講演 1件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 金泰勲
2. 発表標題 「データベースHP「植民地朝鮮の日本人宗教者」構築の日常」
3. 学会等名 東アジア思想文化研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金泰勲
2. 発表標題 「DBHP「植民地朝鮮の日本人宗教者」進捗状況報告 「朝鮮総督府宗教関係文書」を中心に 」
3. 学会等名 植民地朝鮮宗教政策研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金泰勲
2. 発表標題 「植民地朝鮮における日本系宗教の全体図 『朝鮮総督府官報』を中心に 」
3. 学会等名 日本宗教学会大79回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金泰勲
2. 発表標題 「植民地朝鮮の日本人宗教者たちに関する基礎的研究 - デジタルアーカイブの活用とデータベース構築」
3. 学会等名 韓国宗教学会2020年度学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金泰勲
2. 発表標題 「天理教の組織と制度 現在の観点から」
3. 学会等名 韓国新宗教学会2019春季学術大会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 金泰勲
2. 発表標題 「植民地朝鮮の日本系宗教施設とその今 現地調査報告」
3. 学会等名 韓国日本近代学会第40回国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金泰勲
2. 発表標題 「科研費研究中間報告、「植民地朝鮮における日本人宗教者に関する基礎的調査研究」」
3. 学会等名 東アジア思想文化研究会企画研究会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金泰勲
2. 発表標題 「書評報告、青野正明著『植民地朝鮮の民族宗教 国家神道体制下の「類似宗教」論』」
3. 学会等名 朝鮮史研究会関西支部月例研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金泰勲
2. 発表標題 「近代日韓の宗教交流と日本人宗教者たち」
3. 学会等名 香川日韓交流協会講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金泰勲
2. 発表標題 「朝鮮総督府「心田開発運動」と朝鮮の民間信仰に関する言説」
3. 学会等名 韓国日本近代学会第37回国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金泰勲
2. 発表標題 「植民地朝鮮における日本人宗教者に関する基礎的調査研究」
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 大谷 栄一、菊地 暁、永岡 崇	4. 発行年 2018年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 450
3. 書名 『日本宗教史のキーワード』内収録金泰勲「帝国」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 東アジア思想文化研究会企画研究会「帝国日本のキリスト教とその周辺」	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------